

改訂版



HIV/AIDS について話したことがありますか

カトリック中央協議会

はじめに



みなさん、HIV/AIDS について話したことがありますか？

誰かと話すときに、知っておいてほしいことがあります。今でも誤解や無理解、偏見、差別が多く、それによって苦しみ悩んでいる人が多いからです。そこで、「これだけは知ってほしい」ということをわかりやすくまとめました。

大切ないのちを守るために、また、ともに生きるために、自分との対話、家族やお友だちとの対話、パートナーとの対話、医療機関での対話のため、そして神さまとの対話のきっかけとしてご利用ください。

すべての対話の中に真の愛を確認できますように。

長崎大司教 中村 倫明

なぜ、感染したのかではなく

「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」 サムエル記上 16・7b

私たちは、HIV/AIDS のみならず、あらゆる属性（年齢、性別、性的指向、人種、民族、言語、階級、宗教、障害など）に対して、意図的/無意識のうちに「区別」してしまいがちです。それが「区別」にとどまるうちは、そう大きな問題に発展することはないのですが、多くの例が「差別」に発展したということも事実です。

差別の背景には、人種や宗教への理解不足、ジェンダー（社会的・文化的な性のありよう）の力関係、セクシュアリティへの態度、価値観の異なる人たちへの見方などの文化・制度・習慣・社会的構造があります。

「なぜ感染したのか?」、この言葉にどんな重要な意味があるのでしょうか？ 時にこの言葉が相手を責め立て、病気と闘う意欲を奪っているかもしれません。病気やウイルスは人を選びません。区別し差別をするのは、人の心ではないでしょうか。

病気に対する無知が、偏見や差別を生みます。HIV/AIDS について学び、理解を深めること、感染経路で区別・差別をせず、「病を得た隣人」として寄り添うことが今、私たちに求められています。

かけがえのない存在

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」 ヨハネによる福音書 3・16

「小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」

マタイによる福音書 18・14

神は人を、そして一つひとつのいのちを、無条件にかけがえのないものとして愛しておられます。「こういう人なら」ではなく、どんな人も無条件に愛してくださるのです。それほどまでに神にとっては一つひとつのいのち、一人ひとりの人は大切です。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」 ローマの信徒への手紙 12・15

神に愛されていること、そして誰かに愛されていることを実感する時、私たちもまた、人と喜びや悲しみを分かち合うことができるのではないのでしょうか。特に苦しむ人、悲しみを抱える人、弱い立場に置かれた人の存在に気付くことができるのだと思います。

すべての人と歩みたい教会

「わたしの目にあなたは^{あなた}価値高く、貴い。」 イザヤ書 43・4

教会はすべての人とともに歩むことを望んでいます。教会は、神に集められた人たちの集まりです。中には、悩みや苦しみを抱えている人たち、人には言えないような傷を心に負っている人もいます。いろいろな人たちが、神の子どもとして集められ、養われ、一緒に命を分かち合いながら生きていこうとしているところが教会です。

傷つき、悩みを抱えたありのままの自分が赦(ゆる)され、受け入れられるところが教会です。神の前ではどのような人も不完全で、傷を持ち、苦しみを抱えた一人の人間です。神の前ではどの人も平等であり、神の養いと慰(なぐさ)めが必要な人間であることに違いはありません。

どうぞ、教会にいらしてください。気持ちを分かち合う時を持ち、一緒に考えてみませんか。どうすれば、自分らしく、笑顔で過ごせるのかを…。



レッドリボンとは

エイズで亡くなった方への追悼、HIV/AIDSで苦しむ人々への理解と支援、これ以上 HIV に感染する人が増えないようにとの願いを込め、多くの人が身に付けています。

HIV/AIDS デスク
オリジナルレッドリボン



さらに HIV/AIDS について知りたい方は

<http://cath-aids-desk.jp/> で検索!

(発行日) 2024 年 11 月 5 日 (編集) HIV/AIDS デスク (監修者) 中村 倫明(長崎大司教) (発行) カトリック中央協議会

(所在地) 〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 TEL:03-5632-4414 FAX:03-5632-7920